

三河八橋を舞台としたかきつばた

# 岡崎城藤まつり

# 薪能

能のなかのお囃子について

後藤嘉津幸

仕舞

「東方朔」 久田勘鷗 久田三津子

「蟬丸」 清沢一政

「融」 祖父江修一

解説 山下あさの

能「杜若」

シテ 山中雅志



2018 4.28 (土) 開場 15:30

岡崎城二の丸能楽堂

面と装束をつけた楽しい能のお話  
16:00-17:40

能「杜若」 18:00-20:10

主催 岡崎に能楽を広める会

協賛 梓屯(しとん)能面の会

後援 岡崎市・岡崎市教育委員会・岡崎市観光協会・中日新聞社・東海愛知新聞社

チケット：指定席 3500円・自由席 3000円(当日券 3500円)

チケット申込み・2月1日～ 問い合わせ・岡崎に能楽を広める会(岡田印刷)

電話 0564-21-7151 携帯 090-7604-1160

# 岡崎城藤まつり 薪能

開場15:30

番組 18:00~20:10

能のなかのお囃子について 後藤嘉津幸

## 仕舞

「東方朔」久田 勘鷗	地謡 山中 雅志
久田三津子	吉沢 旭
「蟬丸」清沢 一政	山下あさの
「融」祖父江修一	

解説 山下あさの

## 能「杜若」

シテ 山中 雅志	後見 久田三津子
ワキ 高安 勝久	山下あさの
笛 山村 友子	地謡 久田 勘鷗
小鼓 後藤嘉津幸	祖父江修一
大鼓 河村裕一郎	清沢 一政
太鼓 加藤 洋輝	吉沢 旭

### 「杜若」あらすじ

都から東北へと旅をする僧が三河へやってきたとき、沢辺にきれいなかきつばたの花が咲いていました。見とれていると里女がきて、名所八橋のこと、在原業平がかきつばたの五文字を各句の頭に置いて歌を詠んだという故事のことを教えてくれます。「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもふ」

その上、女は自分の庵に案内し、初冠に唐衣きて、自分は杜若の精であると明かします。また、業平は歌舞の菩薩の化現であるので、その詠歌の功德により非常の草木も成仏したと告げ、さらに『伊勢物語』や業平について語り、舞を舞い、消えてゆきます。(榎藤芳一著『能楽手帳』より抜粋)

## プロフィール

### 山中雅志

能楽師 観世流シテ方

昭和52年生。故山中義滋の次男。父及び伯父の生一左兵衛泰知に師事。4歳のときに仕舞『老松』にて初舞台。以後約250番、能の子方を勤める。

現在、大阪、名古屋、奈良、桜井、岡崎で演能活動、謡・仕舞の稽古、講座を行うかわら「エコ・ろうそく能」等の近代感覚の能の実施や「高安ルーツの能」「ありとほし薪能」「えなみ能」等の地域と能との所縁を紹介する活動を積極的に展開する。

また他ジャンル、学者・研究者との交流も多い異才派。名古屋観世会所属。(公社)能楽協会大阪支部会員。

## 「面と装束をつけた楽しい能のお話」

観世流能楽師 山下 あさの 16:00~17:40

### 「熊野」

花見の宴で病の老母に会えることになり喜び帰郷する熊野

### 「船弁慶」

静御前とわかれ、海上で平家の亡霊と戦う義経たち

### 「百万」

心乱し念仏踊りをする釈迦堂で、子どもに会えた喜び

### 「殺生石」

化生の正体が見頭れ、大きな石塊になった女性

## プロフィール

### 山下あさの

能楽師 観世流シテ方

広島市生まれ。大阪市在住。

京都薬科大学卒業。在学中能楽と出会い、卒業後内弟子修行を経て能楽師となる。観世流職分山本勝一に師事。能楽の普遍的で奥深い表現様式を伝えるべく、舞台公演・技術指導の傍ら幅広い普及活動に取り組んでいる。

年二回広島で自主公演を行う。

謡蹟探訪会主催。公益法人能楽協会会員。

### 坂井 孝 能面の作者

梓屯能面の会を主宰(岡崎・彦根にて教室)

平成5年岡崎市面打ち講座を受講

その後、平成17年より講師に就き現在に至る

横浜・大阪の能面公募展の入賞作品が舞台で使用され、

その後全国各地の舞台で自作能面が使用される。

## 「岡崎に能楽を広める会」設立趣意書並びに「賛助会」設立の趣旨とご協力をお願い

日本古来の「能楽」は世界にその類を見ない総合舞台芸術として海外でも高く評価され愛好者も多く、また岡崎が生んだ偉大なる為政者徳川家康が最も愛し、自らも能を舞い、能を広めた古典芸能であります。

その岡崎に能舞台が無く、「岡崎に能舞台を」という関係者の悲願がかない30年前、当時の岡崎市長中根鎮夫氏の大英断により当時としては巨額の費用(約2億円)を投じて「岡崎城二ノ丸能楽堂」(能舞台)が建設されました。当初は岡崎市主催の薪能や愛好者による能あるいは謡曲・仕舞の会が盛んに行われ、能舞台が有効に活用されていましたが、時を経るとともに岡崎市主催の薪能も催されなくなり、能舞台の有効活用が影を潜めるようになりました。

そこで、市民の皆さんの浄財を投じての能舞台の有効活用を目指し、岡崎および周辺の能楽愛好者により「岡崎に能楽を広める会」を3年前に設立し今日に至っています。今回「岡崎に能楽を広める会」が主催し「薪能」を開催することになりました。今後も設立の趣旨に沿って能舞台の有効活用目指し活動してまいりますので「岡崎に能楽を広める会」に絶大なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。